

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索



昨年の開会式の様子。

永遠の高校球児たちへ マスターズ甲子園

第101回全国高校野球選手権大会は今年も熱戦が繰り広げられ、令和初の夏の甲子園の幕が下りた。皆さんは秋に甲子園球場で行われる”もうひとつの甲子園”があるのをご存知だろうか。

「マスターズ甲子園」は別名「秋の甲子園」ともいわれ、元高校硬式野球部関係者(部員、監督、部長、コーチ、マネージャーのOB・OG)で、高校の野球部に一時期でも在籍したことのある者のみ出場資格が与えられる大会である。全国で200万人いると推計される元高校球児が、各地域でのOB・OG野球クラブの活性化、生涯スポーツとしての野球文化の発展、熟年(マスターズ)世代はもちろん、現役の高校球児や若い世代への応援メッセージの発信などを行っている。

ベンチ登録者は選手、監督、部長、コーチ、代表者、マネージャーを含めて最大50名までで、登録者は全員が試合に出場することができる。試合は9イニング、もしくは1時間30分打ち切りで延長戦は行わない。3回までを34歳以下のチームで行い、4回以降は35歳以上のチームで行う。投手は全て2イニング以内の登板とするなど、19歳から80歳を超える幅広い年代や性別の選手が出場するため、ルールや試合方法にマスターズ甲子園独自の規定が設定されている。

真剣勝負でありながら、多様性を認めて楽しみながら勝負するのがマスターズ流。そして、高校時代は行くことができなかった夢の舞台・甲子園球場に母校のユニホームを身につけて共に出場する父と息子、全国制覇してもなお、またあの聖地を目指す選手たち…など、様々なストーリーが。

今年は大阪のPL学園が地方大会に出場して話題となった。甲子園に高校1年の夏から5季連続出場、通算20勝を挙げ、プロ野球・読売ジャイアンツでも活躍した桑田真澄さん(51)がマウンドに上がっている。現在硬式野球部は休部中だが、春夏連覇を含め春3回、夏4回の優勝を誇る超名門校・PL学園がマスターズ甲子園で復活となるか、注目だ。

第1回大会(2004年)の開催当時、各地区の予選大会参加校は4県82校だったが、昨年の第15回大会には16都道府県305校の参加となった。マスターズ甲子園実行委員会の長ヶ原誠 委員長は「目指せ甲子園という思いは何歳になっても変わらない。終わらないんですね。生涯、



秋の甲子園でも毎年熱い戦いが繰り広げられている。

野球を楽しんで各地区でも同窓会として盛り上がってほしい」と話す。

16回目となる今年の大会キャッチフレーズは「あの日の9回裏のその先がある」。11月8日(金)に前夜祭、9日(土)と10日(日)に試合が行われる。



歴代の大会ポスター。

西宮でも開催「体感型防災アトラクション」

中市立野田小学校に貼り出されたパニック映画のような「防災訓練」の告知ポスター。災害現場を再現し、ゲーム感覚で楽しみながら防災を学べる参加型の「体感型防災アトラクション」のポスターだ。野田校区では毎年「野田校区自治協議会」の主催により、防災設備が整った野田中央公園で防災訓練が行われていた。しかし、200人以上の参加者が集まるも大半が高齢者。地域コミュニティ活性化が目的でもある防災訓練に、若い世代も参加して欲しいというのが自治協議会の願いだった。

そこで、役員の一人在験して面白かったという「株式会社フラップゼロα」による

防災アトラクションの実施を依頼。開催日は大雨だったにも関わらず、親子連れや友達同士、孫を連れてお爺さん、他学区からの見学者など続々と会場に現れ、計400名の参加となった。

アトラクション前に防災知識のクイズが行われたが「参加者があまりに知識がなさすぎてスタッフの方が驚いてました」と会長は苦笑した。そしてついにアトラクションへ。「巨大地震発生、災害現場から脱出するまでに残り時間わずか」という設定でスタート。巨大スクリーンでの臨場感あふれる映像演出。会場に響くカウントダウンに焦らされながら、4つのミッションをグループで協力しあってクリアしていく。その際に災

害時に必要なアイテムの知識が付き、現場からの脱出・安全確保を目指す事で、自助、共助の大切さを体感する。

最後に「ふり返しシート」で復習するのだが、災害を体感したことで本当に必要な物が頭に入っていたらしい。「知識を得ただけじゃなく、意識が変わりました。市や誰かがやってくれる、ではなく自分でやらなければ」と役員たちは決意する。さっそく運営委員で町の防災を見直し、避難場所を誰が見てもわかるように誘導する「防災マップ」の掲示板を各ポイントに立てることが決まった。防災意識の向上と地域コミュニティ活性化にもつながった。

8月末に西宮市主催で西宮市役所にて



「大雨洪水」をテーマにしたアトラクションが開催される。西宮市での開催は今回で3回目。「株式会社フラップゼロα」の統括プロデューサー松田さんは「西宮市は風水害が続いていたので何度も要望を受けております。2016年に3つの台風が上陸した北海道からの要望もありました。『大雨洪水』には『巨大地震』とはまた違う知識が必要なので、たくさんの方に知っていただきたいです」と話す。